

中期経営計画 ①

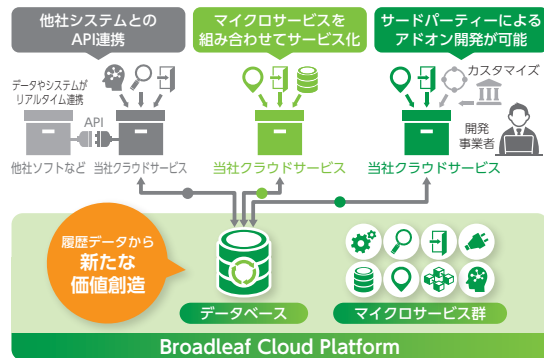
経営方針と基本戦略

中期経営計画(2022-2028)では、経営方針として「モビリティ産業のDX推進を通じて、オンリーワンのプラットフォームカンパニーに進化」を掲げ、既存のお客様の業種にとどまらずモビリティ産業とその関連産業のお客様に、様々なクラウドサービスを提供していきます。計画達成に向け、サービスの共通基盤となる『Broadleaf Cloud Platform』を起点として、基本戦略「クラウドの浸透」と「サービスの拡張」を並行して進めていきます。

『Broadleaf Cloud Platform』

設計手法としてマイクロサービスアーキテクチャー^{※1}を採用しているため、お客様のビジネスに必要な基本IT機能や業務アプリケーションを、短期間で実装することができます。また、マイクロサービスはAPI^{※2}を通じて他社製ソフトウェアなどと連動可能なため、お客様のビジネス環境に最適なITソリューションを、短期間で構築し提供することが可能です。さらに、収集された大量データを高速処理し、新たな付加価値としてサービスの中で循環利用できる仕組みとなっています。

このように、当社のクラウドサービスは柔軟性と拡張性に優れていることから、幅広いお客様に迅速に提供することができ(クラウドの浸透)、ビジネスに必要とされる様々なサービスの展開が可能となります(サービスの拡張)。



※1 機能ごとに分解されたサービスを組み合わせてひとつのアプリケーションを構成する技法 ※2 Application Programming Interfaceの略。アプリケーションやプログラム同士をつなぐ仕組み

中期経営計画(2022-2028)での連結業績は、最終年度となる2028年12月期において営業利益率40%、親会社の所有者に帰属する当期利益80億円の達成を目指します。

クラウドソフトウェアへの転換に伴う売上収益への影響

2022年12月期が月額サブスクリプション方式での売上計上となるクラウドソフトウェア『.cシリーズ』への転換初年度です。以降、約6年間にわたり毎年一定数のお客様が『.cシリーズ』へと切り替わっていくことから、2023年12月期以降は前期比で増収が継続します。

クラウドソフトウェアへの転換期における収益構造

お客様の大半が『.cシリーズ』へと切り替わるまでは、販売費や一般管理費に大きな変動は生じません。また、自社開発のソフトウェアであることもあり、限界利益率が高い利益構造となっています。そのため、売上収益の増加に伴い、営業利益率が上昇する収益モデルとなります。

